



地域と共にある学校②

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

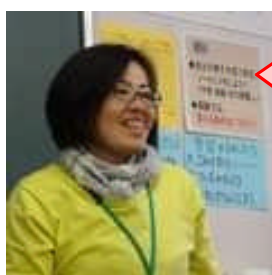
前号では、「コミュニティ・スクール」(以下、CS)が、保護者や地域住民の皆さんにとって画期的な仕組みであるにもかかわらず、「形だけの会になっていて有意義な議論が行われない」といった声が多い、ということをお知らせしました。

本号では、茶内地区学校運営協議会が本来の機能を発揮して、子どもたちの豊かな成長を支えるためにはどうすべきかを考えていきます。

東京都三鷹市のCSマイスター(CS導入に向けて学校や地域を支援する人)である四柳千夏子氏は、CSを機能させるためには、学校、家庭、地域の「心構え」が大切であると述べています。



学校においては、校長先生がCSをどのようにマネジメントするかが大切です。例えば、校長先生がCSを本気で機能させようと思っていれば、「本校ではここを重点としているので、一緒に考えて何か取組ができないだろうか」、「本校ではこんな課題を抱えていて解決するためにはどうしたらいいだろうか」など相談するはずです。



保護者や地域の側にも、CSを機能させるために必要な心構えがあります。「CS委員会の皆さんは、校長先生の辛口の友人でいてください」ということです。CSは、よりよい学校をつくるために地域や保護者も当事者として話し合っていく場なので、ただイエスマンのように承認するのではなく、言うべきことは言わないといけません。辛口なので時には耳の痛いことも言う。でも友人なのでいつでも近くにおいて応援する。あくまで学校の応援団であるということです。

先日の第1回茶内地区学校運営協議会において、小学校も中学校も学校経営方針を説明し、承認していただきました。しかし、学校から提示される文書等は専門用語が多く、相手意識がありません。本校の学校経営方針も例外ではないと考えます。第2回目の本協議会において、「茶内地区として子どもたちにどのような力を育みたいか、そのためには何ができるか」を協議することになっています。その際、学校経営方針の具体を改めてお示しするとともに、本校で抱える課題についても率直にお伝えし、その解決に向けて御理解御協力をいただきたいと思いますと考えております。

また、四柳氏が言うように、校長にとっての「辛口の友人」となっていただきますようお願いいたします。茶内地区学校運営協議会が本当の意味で機能するようお力添えをよろしくお願いいたします。